

THE RACING PIGEON  
2023  
JULY  
Vol. 772

# レース鳩 7



特集 /

Gran història & ザ・ドキュメント2023

～“稚内GN”の今～

令和5年度東日本稚内GN

北陸ブロック連盟稚内GN

関東三大長距離レース特別座談会 第1弾

令和5年度東日本稚内GNベスト10座談会



令和5年5月13日撮影

令和5年度 東日本稚内GN1,238羽中総合優勝  
1000K地帯優勝

(実距離1,019.855K/分速1,130.158m・2日目)

“GNドリーム563”

22HA07563 BW ♀ 松浦邦彦鳩舎(茨城・茨城西連合会)作翔

\*23年春茨城連盟白老GP2,378羽中総合155位

“JCドリーム448”(※10年ジャパンカップ総合優勝)の曾孫×孫

“ド・バルセロナ”(※08年バルセロナIN5位・ZLU優勝)の曾孫×玄孫

令和5年度 東日本稚内GN1,238羽中総合優勝 (実距離1019.855K/1130.158m)

“GNドリーム563” 22HA07563 BW ♀ 松浦邦彦鳩舎 作翔

19HA13716 S 松浦邦彦 作  
異母姉/19年東日本稚内GN総合8位  
下記18HA00105(6)  
19年東日本稚内GN総合7位)

13HS01198(3) RC 栗原明則 作 松浦 使翔  
14年東日本稚内GN2,268羽中総合4位  
“ド・バルセロナ”(08年バルセロナIN5位)の孫  
15HB06059(4) B 松浦 作翔  
16年東日本稚内GN2,908羽中総合2位  
下記11HA05881(1)“JCDドリーム448”の直子)の娘  
孫/21年兵庫県連盟桜花賞総合優勝

21HA02252 B 松浦邦彦 作  
全兄弟/22年東日本稚内GN  
総合13位

11HA05881 B 一文字ロフト 作 松浦鳩舎種鳩  
“JCDドリーム448”(1)×08年東日本稚内GN総合2位  
直子/上記15HB06059(4)、16年東日本稚内GN総合47位  
孫/22年東日本CH5,230羽中総合8位  
18HA00105(6) BC 松浦 作翔 19年東日本稚内GN総合7位  
上記13HS01198(3)×“JCDドリーム763”(2)  
全姉妹/19年東日本稚内GN1,106羽中総合8位  
異父兄の孫/21年東日本稚内GN2,772羽中総合10位

10年JC当日総合優勝

①“JCDドリーム448”  
BC ♂  
松浦邦彦鳩舎 作翔  
基礎鳩



13年JC当日総合優勝

②“JCDドリーム763”  
B ♀  
松浦邦彦鳩舎 作翔



14年東日本稚内GN  
当日総合4位

③13HS01198 RC ♂  
栗原明則鳩舎 作  
松浦邦彦鳩舎 使翔



16年東日本稚内GN  
総合2位

④15HB06059  
B ♀  
松浦邦彦鳩舎 作翔



19年東日本稚内GN  
総合7位

⑤18HA00105  
BC ♀  
松浦邦彦鳩舎 作翔



孫  
14年JC北関東連盟優勝  
16年東日本稚内GN総合2位(4)  
16年東日本CH総合5位  
曾孫  
22年東日本CH総合8位  
23年東日本稚内GN総合優勝  
(表紙参照)  
玄孫  
22年KBDB会長賞連盟1位

表紙の鳩

「俺流」が導いた新たな伝説

関東三大長距離レース史上最多のV4!

令和5年度 東日本稚内GN総合優勝 松浦邦彦鳩舎(茨城西連合会)

基礎鳩の近親で

10年ぶり2度目のGN制覇!

雨、晴れ、追い風、無風、逆風、エリアと時間ごとに変化する複雑な展開となった今春の東日本稚内GNは、松浦邦彦鳩舎が総合優勝に輝いた。同鳩舎は09年に関東三大長距離レースでダブルベストテン入り(GNとJC)を果たしたことを機に覚醒し、その翌年はJC総合優勝。13年にはJCとGNのダブル制覇という伝説を築いたことは余りにも有名であろう。訓練主体で仕上げるのがマイスタイル。強豪鳩舎たちがこぞつて範を取るほどブームとなり、また今回のGNで総合4位に入賞した鳩友——藤井博愛鳩舎のように成功を収めた者も多く現れたことは記憶に新しい。

ところが近年の松浦鳩舎は実は舍外メインの手法に切り替えていた。それでもベストテン入賞を重ねていくものの、「切れ味」が物足りない…。失われた爆発力を取り戻すべく、今春は「かつてに回っていた」。

原点復帰。10年ぶり2度目の究極の勝利は、「俺流」で果たされたものであった。

総合優勝鳩は一番最初に関東三大長距離レースを制した夢の体現者「JCDドリーム448」のインブリードである。また自鳩舎作翔の関東三大長距離レースのベストテン鳩の血が5羽

ダイレクトに脈打っており、まさしく「集大成」ともいえる血統構成だ。その一方、過去10年間の東日本稚内GNにおいてベストテン鳩を多数輩出している「ド・バルセロナ」の血も流れている。一見、その代落ち同士の交配となっているもの、組み合わせた馬の世界でいう奇跡の血量交配だ。つまりはブラッドスポーツの法則にのっとり作り出されていたのである。

そしてこの、然るべき1羽は、稚内から翼の裏側に大きなケガをして帰還…。表紙の写真が若干右肩下がりになっているのはそのためだ。これらのエピソードから松浦鳩舎の喜びと感動が計り知れないほどに大きかったことは言うまでもない。さて同鳩舎はこれで4連続、延べ14羽の関東三大長距離レースのベストテンを獲得し、総合優勝数にいたっては歴代最多となる4度に到達した。13年のJC&GNダブル制覇に次ぐ偉業を成し遂げたわけでも、まさにスペシャリストとしてふさわしき強さを体現している——が、当人曰く2年後の25年春シーズンをもって中断すること。決断の理由は、頂点を極めし者の宿命「パーニアウト」に限りなく近い感情のようだ。

「残り2年とはいえ、性的的に手を抜くつもりはありません。全力で関東三大長距離レースを勝ちに行きますよ」。

09年から始まった「俺流」の物語は、新たな伝説の樹立をもつてその最終章の幕が開いた。その結末に刮目したい。

松浦邦彦鳩舎(茨城西連合会)